

〈記念講演〉 9月20日(土)13:20~15:00 九州産業大学 1号館 S201

『すべての人の発達の権利が守られるために ～変わっていく社会の中で何を大切にしていけるのか』

講師 白石正久さん(龍谷大学名誉教授、野の花こども館)



障害や発達につまずきがある子どもたちや成人期の仲間たちも、一人ひとりが「～したい」「もっとこうなりたい」という“今までの自分とは違う新しい自分”へのねがいをもっています。制度や社会のしくみが変わっていく中で、人生の主人公である子どもや仲間一人ひとりの“発達への権利”を守るために、どんな社会の形が求められるのか、そのために私たちは、何を大切に実践していったらよいのか、白石正久さんの講演を通して考えていきたいと思います。

〈講座〉 9月20日(土)15:15~16:45 九州産業大学 (3号館)

講座 A (乳幼児期) シンポジウム 『 障がいがある乳幼児期の豊かな発達を保障する保育療育を考える』

保育所・児童発達支援センター、シンポジストの方々に現場の状況を報告していただきます。

アドバイザー:白石正久さん

「福岡市版—こども誰でも通園制度」「児童発達支援センターのお預かり保育」「保健所の統廃合」「児童発達支援事業の増設に伴う企業参入」等、障害がある子どもたちの療育体系が大きく変わろうとしています。それぞれの現場の現状を出し合い、今、大切にしなければならないこと・取り組まなければならないことを考えます。

講座 B (学齢期) 講演 『それで、よかよか ～寛容の精神が醸成される社会へ～』

講師:齊藤真人さん(学校法人 立花学園 立花高等学校 校長)

立花高等学校には、小学校・中学校で、生きにくさを感じてきた子どもたちが多く通っています。ホームページのメッセージには「苦手なことは、安心して苦手なままでもいい」「子どもたちに光を当てるのではなく、子どもたち一人ひとりが光そのものになってほしい」とあります。“誰一人、とり残さない”立花高等学校の校長、齊藤真人さんの子どもへのまなざし、教育観をしっかりと受け取りたいと思います。

講座 C (学齢期) 講演 『発達障害とトラウマ』

講師:楠凡之さん(北九州市立大学文学部人間関係学科教授)

ASDの子どもはその知覚や情報処理の違いによって、日常の様々なできごとがトラウマになりやすいこと、周囲からの嘲笑やからかい、大人からの強めの叱責などが契機となり、トラウマ関連症状(外傷体験の繰り返しの想起、悪夢、驚愕反応など)が生じやすいことが指摘されており、発達障害支援現場に『トラウマインフォームドな発達支援』を加味することの重要性(亀岡智美)も提起されています。本講座では、発達障害とトラウマとの関連性を理解するとともに、それを踏まえた支援の課題と留意点を考えます。

講座 D (成人期) 講演 『障害の重い仲間たちにとって「働く」とは?』

講師:阿部哲三さん(社会福祉法人希望の森 多機能型事業所エバーグリーン施設長)

阿部哲三さんは、多機能型事業所エバーグリーンには就労継続支援B型と生活介護の施設長として、仲間も職員も楽しい日中活動をめざし、ユニークな取り組みを実践されています。阿部さんの実践を通して、今回は障害の重い仲間たちにとっての『働く』意味、大切さをお話して頂きます。

講座 E (家族交流) 「語ろう、つながろう」

話題提供者:学齢期、青年期、成人・高齢期、それぞれのライフステージから話題提供をして頂きます。

「『我が家の当たり前』はみんなの家ではどうなの?」「24時間介助。ホッとする時間が欲しい」「自傷繰り返す我が子。一番辛いのは子ども自身とは思うが、親も辛い」「学校選びや作業所選びを相談したい」「いつまでも親が元気でいられない。その時この子はどうなるのだろう」。悩みながらも小さな成長に喜び、人々との出会いで学んだ事、乗り越えられた事も多かったと思います。子育ての中で日々感じている様々な思いを語り合いましょう。

	分科会名	討議の柱
1	乳幼児期の保育・療育	○発達が気になる子どもへの対応 ○子ども理解と集団作り ○保護者への支援、よりよい関係づくり ○専門機関との連携や幼小連携の在り方 ○療育支援のためのシステム・制度づくり
2	学齢期の発達保障	○発達保障をめざす教育実践・インクルーシブな学校教育 ○互いの学びや気づきのある「交流及び共同学習」 ○教育の場・教育課程づくり・教育条件整備・通学保障 ○包括的性教育の理解と実践 ○放課後等デイサービスを含む関係機関との連携 ○進路保障
3	放課後保障と地域での生活	○豊かな放課後生活・地域生活と発達保障 ○放課後実践に求める支援のあり方 ○学校や他の関係機関との連携 ○放課後等デイサービスにかかわる国や自治体の制度、運営の課題等
4	青年・成人期の豊かな生活と労働保障	○自立をめざした学びの場、地域活動の場の実践 ○豊かな生活・労働とその支援 ○暮らしの場と家族支援のあり方 ○生と性の権利 ○権利擁護と法制度(合理的配慮、交通バリアフリー、65歳問題など) ＊専攻科を含む

※ 分科会について

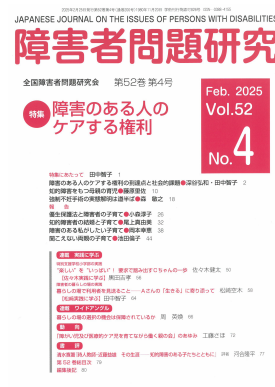
- ・ 各分科会、2～3本の実践報告を予定しています。
- ・ 実践報告を中心に討議の柱にそった話し合いをします。
- ・ ライフステージ毎の分科会にしていますが、いろいろな悩みや情報等を出しあえる場になればと考えています。(例:重症児・医療的ケア・強度行動障害)

全障研の雑誌のご紹介



全障研の月雑誌 「みんなのねがい」

1970年に創刊された「みんなのねがい」には障害のある人やその家族、実践者など、さまざまな人のねがいや希望、ときには、こころの葛藤がつまっています。あなたの生活にそっと寄り添う、やさしくあたたかみのある一冊です。



全障研の研究誌 「障害者問題研究」

障害のこと、発達のこと、制度のことを学びたい。子どもや障害のある人のことをもっと理解して、実践をたしかなものにしたい。理論を実践にいかし、実践を理論にいかすことをめざしています。

全障研の出版物のオンライン注文は『みんなのねがい web』のHPをご覧ください。